

モラルサイエンス研究会（令和2年5月13日）発表要旨

移住と宗教—これまでとこれからの研究

人間学研究室
客員教授 田島 忠篤

麗澤大学卒業後から本年度4月当研究所就任までの研究を振り返り、今後の研究指針について発表した。これまでの研究テーマは以下5つである。①国内移住と宗教変容：奄美大島の西阿室集落と同郷団体、②宗教教育の実践と効果：高校と大学生対象として日韓の比較も、③在日コリアン研究：在日済州島高内里の同郷団体と母村の関係および朝鮮学校教員の祖先祭祀、④国際移住と宗教変容：奄美大島出身ブラジル移民の帰郷者、⑤アイヌ民族とマリモ祭り：民族と文化の関係である。全体的な分析枠は宗教的社会化であるが、②以外は、宗教・エスニシティと移住を主題としている。

麗澤大学前身の東亜外事専門学校の学生が学徒出陣にあたり「私が戦死したら、魂は故郷でも靖国神社でもなく廣池学園に戻る」と言い残して戦地に赴いた。モラロジーの人心救済と靈魂の関係および現代社会の魂の在り様を今後の研究課題としたい。